

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	菜の花 東苗穂館 2F	評価実施年月日	平成20年1月25日
評価実施構成員氏名	葛西 清仁 北口八重子 高橋 ひとみ 三沢一樹 佐藤 美樹 朝倉 眞由美 中村 峰子 児玉 貴穂		
記録者氏名	葛西 清仁	記録年月日	平成20年2月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域とのふれ合い又は、住み慣れた地域での生活を目標とした理念をホーム内にかかげている。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルーム、玄関に理念を掲示している。ネームプレートの裏に携帯用の理念を入れいつでも確認できるようにしている。		ユニット会議時に理念に沿った介護が出来ているかスタッフと確認している。
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	御家族様にも見えるよう玄関に理念を掲示している。又、運営推進会議等で地域の方々にホームの理念について説明をしている。	○	茶話会、町内会の集まりに出席し、グループホームについて説明させて頂いている。葉の花便りにも理念を記載し、御家族様にも理解してもらう。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩などで挨拶を交わしたり、近くのお宅の庭を見せて頂き、そこで会話を楽しんでいる。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の茶話会や防災訓練にも入居者様と一緒に参加している。又、東苗穂館で実施した夏祭りには、近隣の住民の方に参加して頂いている。町内会行事にも積極的に参加している。さらに、町内会のゴミ捨てや、リサイクル活動にも参加している。		8月に東苗穂館主催の夏祭りには町内会の方がボランティアとして来て下さったり又、多くの地域の方が参加して下さり交流を持つ事が出来た。
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホームヘルパーの実習を受け入れている。又、町内会の集会に出席介護について気軽に相談してほしい旨お伝えしている。		子供110番の家となっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>スタッフに自己評価表を配布、全員が記入している。その後全スタッフと話し合い評価に取り組んでいる。</p>	○	外部評価の意義、結果をスタッフに報告、質の確保向上に今後も取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2か月に1回の運営推進会議を開き、個別ケアの対応について又、職員のストレスに関するアンケート調査等についても報告し、意見評価を頂きながらサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>介護保険課事業指導係りに、制度上の疑問点を聞いたり、提出書類について相談する等、連携を取っている。</p>	○	札幌市主催の管理者会議を利用して介護についての疑問点、要望、相談に乗って頂き、質の向上に取り組んでいきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>介護部長がアドバイザーになり、権利擁護事業や、成年後見人に関する制度について勉強している。又、外部研修にも参加している。御家族様からの問い合わせには、説明し対応している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待の研修に参加している。ホーム内では、虐待、拘束はいっさいしていない。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>本社職員と一緒に利用者御家族が納得して頂けるよう説明している。解約する際は御家族様と充分話し合い納得して頂いている。</p>		医療が必要な方には、何度も病院に面会に行き、御家族様と十分に検討、納得して頂き退去されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の意見、不満、苦情については申し送りや、ユニット会議で改善にむけ話合っている。又、御家族様の御協力をお願いする事もある。思いを伝えられない御入居様には態度、表情から察する努力をしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来館時に健康状態や、近況報告をしている。又、毎月発行している菜の花新聞でも伝えている。病院受診結果等は電話等でも連絡を取っている。金銭管理については、個人出納簿で出入金の内容を毎月御家族に郵送している。職員の異動等については、菜の花新聞で報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を設けたり、アンケートBOXの設置、苦情担当者を掲示している。苦情については、カンファレンス等で検討又は、本社へも伝え、早急な対応と改善に努めている。運営推進会議の御家族代表の方より、御家族としての意見を聞いている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のユニット会議で職員の意見、要望を聞き検討している。又、2か月に一度、管理者会議があり、職員の意見や提案を聞く機会が設けられ反映されている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の状況や体調又は、レクリエーション等必要な時間帯に職員が確保出来るよう勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新人職員には、早くなじみの関係になれるようご入居者様に紹介、さらに御利用者様とのかかわりを強く持ってもらい、時には御利用者様よりホームのことを教えてもらう事もある。異動、辞職がやむおえない時は御利用者様の引継ぎを徹底して実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>介護部長による社内研修が実施されている。又、外部研修参加者は復命書を提出、さらに伝達講習もしている。ユニット毎に年間研修計画を作成し、研修を実施している。</p>	<p>介護福祉士受験者に対し勤務調整をし研修等に参加が出来る様になっている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>区の管理者会議に出席し、他ホームとの交流を計っている。</p>	<p>○ 他の事業所(グループホーム)との交流(実習も含む)等を検討していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>必ず休憩をとれるよう時間調整している。又、ゆっくり休めるスタッフルームも設置している。いつでも相談できるよう常に声掛けをしている。不定期であるが食事会、親睦会を実施しコミュニケーションを取りストレスが解消出来る様取り組んでいる。</p>	<p>全職員に向け、ストレスに関するアンケート調査を実施した。その結果をふまえ、ストレス軽減に向け改善中。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>時給等資格に応じて昇給などがある。資格取得に向けて支援をしている。運営者、又、介護部長が現場に来所、職員の業務成果を把握している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に御本人に面談、意向や不安等を傾聴し、気軽に話せる雰囲気を作っている。又、直接グループホームに見学に来て頂き納得してから入居される御利用者様もいる。希望者には体験入居出来るシステムがある。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>御家族様の体験や不安さらに意向等をゆっくり傾聴し、安心していただける努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族からの相談を受け止め必要に応じてサービスを考えている。又、早急な対応が必要な相談については、他事業所や、ケアマネジャー等につなげるなどの対応をしている。		御本人様、御家族様の立場に立って改善に向け支援の提案等を行い必要なサービスにつなげている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員が自宅に訪問させて頂き、御本人様のお部屋を見せて頂きながら、なじみの関係を築く努力をしている。又、見学にきて頂き、レクレーションや、昼食と一緒に食べて頂き、グループホームの雰囲気に馴染んで頂ける様工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	御本人様と共に喜び、悩み、楽しめるような雰囲気作りに心かけている。又、調理、その他の事でも御入居者様より教えてもらう事が多い。支援する側、支援される側という関係にならない様、共に生活しているという視点で暮らしができるように努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族様との連携を密にし、御入居者様の日常生活を面会時や電話にて報告し情報を共有している。レクレーションやバスツアーにも御家族様に参加して頂き喜怒哀楽を共にしている。	○	外出やレクレーション活動に多くの御家族様が参加して頂ける工夫をしていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	月1度の菜の花新聞や、日頃の状況を面会時に報告している。又、行事の時は御家族様にも参加して頂けるよう連絡している。	○	外出や外泊で御家族様と一緒に過ごせるよう勤めていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入居者様が行きたいと希望があった時は、御家族様と相談し外出できるよう心かけている。馴染みの美容室に通っている人もいる。又、御友人が遊びに来る事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	全スタッフが入居者様の間関係を把握してをり、入居者様が孤立しないようスタッフが中に入り入居者様同士の会話がスムーズにおこなえるよう話題を提供したり、食事やお茶の時間も関係が円滑に行くよう働きかけをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他のグループホームに移動された方が遊びに来て下さったり、こちらからも訪問している。医療処置が必要で退去後も病院にお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御利用者様の日々の表情、言動やサインを観察。少しでも御利用者様の思いを把握出来るよう努めている。又、御家族様からも情報を得て対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を導入している。入居時に御家族様にセンター方式のAシートを記入して頂いている。又、御利用者様との会話の中から情報を得、更に御家族様の面会時にも生活歴を聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様の生活状況を理解し、観察する事により、出来る、出来ない事を見極めている。又、アセスメントした情報は個人記録にファイルし会議等でも共有できる様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御利用者様、御家族よりの情報や意向を聞いている。又、各担当者がモニタリングをし、全スタッフ参加のカンファレンスで検討し介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月の見直し評価を行っている。体調の変化、退院時状態変化に応じて介護計画の見直しを随時行っている。入居者様や御家族様の希望や、要望があった際には、都度介護計画の見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ファイルに日々の生活の様子や言葉なども記録、更に排泄、水分、入浴を記載し情報の共有をしている。	○	ケアプランに添った記録の充実に努めて行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院受診時はホームの車を利用している。外食や買い物等ホームの車では乗車出来ない時は本社リフト車を利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の協力により、防火訓練を行っている。又、老人クラブやちびっ子ダンススクールの子供達も訪問して頂いている。又、地域の防災訓練には御入居者様と一緒に参加している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の訪問理美容サービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加して頂いている。その時に個別ケアの取り組み等を相談、更に地域の周辺情報交換等、協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	家族、本人の同意を得てかかりつけ医院や、訪問診療を決めてをり、担当者と相談している。訪問看護ステーションの看護師に相談、日常の健康管理を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医院の担当医、訪問診療の先生に相談指示、助言を頂いている。又、御入居様が認知症に関する診療を受けられる様支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職である介護部長や、訪問看護ステーションの看護師に気軽に相談でき、助言や対応の方法についても指導してもらっている。夜勤帯でも御入居者の状態により、グループホームに訪問してくれる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時、病院を訪問し御利用者を見舞、状況把握している。又、担当医や看護師と情報交換をする事もある。更に御家族様と情報交換をし、早期退院出来るようアプローチしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化した時の対応指針の同意書を頂いている。病状により、御家族様、担当医と話し合い方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	最後までホームで共に過ごして頂ける様、御家族様の意向を聞き、「出来る事、出来ない事」を見極め医師と連携をとりながらチームとしての支援に取り組んでいる。	○	訪問看護ステーションの看護師と連携を密に取り、より充実した終末期に向け取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>アセスメントやサービスの支援内容、注意点について情報提供しながら情報交換を行い、ダメージが出来るだけ軽減するようにしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや、対応をしない様努めている。又、入居者様が聞こえる場所では、スタッフ同士の情報交換を行わないようにしている。どうしても必要な場合はイニシャルで会話している。個人情報には人目に触れないよう管理している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>スタッフが入居者様の状況を見ながら、どちらかを選べるような声掛けをしている。食事の献立や外食時のメニュー選び、着替え等御入居者様一人ひとりの希望で選んでもらえるような場面や対応を心掛けている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>御入居者様が好きなように時間を過ごして頂けるように支援している。起床や、入浴時間、食事等、御本人様のペースに合わせて対応している。朝寝坊をしたり、夜いつまでもリビングで過ごされる御入居者様もいる。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>洋服は御入居者様が撰んで着替えている。きめる事が難しい人の場合は、スタッフが用意し、選択してもらっている。月1回、訪問理美容がホームに来て御本人様の好みの髪型にカットしている。又、毎日お化粧をされている御入居者様もいる。</p>		<p>馴染みの美容室に通っている御入居者様もいる。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理や味付けを手伝ってくれる御入居者様、茶碗ふき、テーブル拭き等、御入居者様の状況に応じて一緒に食事の準備している。夏には、裏の畑に自分で作った野菜を収穫しその日の料理に使用している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	今の所、御入居者様に喫煙の習慣がある方はいない。好きな飲み物や、おやつ等、御利用者様の好みを汲み取って支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用しトイレ誘導している。又、オムツを使用している方もトイレにて排泄して頂けるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回以上の入浴を御利用者様に合った入浴方法で、ゆっくりと入浴が楽しんで頂けるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の好きな時間帯に休んで頂いている。眠れない方には、スタッフがお話を聞いたり、暖かいお飲み物を出したり対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	料理、掃除、茶碗拭き等、御入居者様が出来そうな事をお願いしている。すでに役割として毎日して下さる方もいる。スタッフと一緒に行事により、できそうな事に挑戦して頂いている。		男性職員が台所に立つと「心配で見られない」と必ず御入居様が入り、献立のほとんどの料理をしてくれる事もある。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小額のお金を持っている方はいる。御家族様同意のもと紛失しても良い程度の金額を持っている。買い物に行かれた時は、御入居者様に支払をしてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個別の希望に応じて対応している。散歩(買い物、畑)又、夏場の天気の良い日は、外でパラソルを広げ、お茶やおかしを食べのんびりくつろいでいる。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月、外出レクレーションを計画し実施している。小樽の水族館、百合が原公園、モエリ沼公園、花見等、必ず行く時には、御家族様に連絡をとり参加して頂けるよう声をかけている。参加して下さる御家族様もいる。	○	御入居様と相談しながら、今後も外出レクレーションや行事を継続していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に出来る様になっている。電話番号がわからない御入居者様には、スタッフが代行し御家族様と話せる支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽にいつでも訪問できるよう、時間制限等はない。飲み物を提供し、御入居様とゆっくりお話出来るよう居室に御案内し飲み物をお出ししている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束等はないか、言葉の拘束がないか職員間で確認しあっている。本社主催の拘束防止の研修には、全職員が受講している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関にはセンサーを設置しているが、センサーに頼る事もなく、御入居様の様子を把握し見守りを徹底している。(料理等しながらさりげなく見守りしている。又、フロアールで記録書きをしながら、見守りしている)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に御入居者様の様子、所在確認しスタッフ間で連携を取りながら安全を確認している。又、御入居者様が全員の把握ができるように、スタッフの居る位置を考えて記録等をするように工夫している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物については、危険を避ける為保管場所を決めている。(漂白剤は施設した場所に保管)薬については、スタッフルームにて保管。異食の可能性のある入居者様については、物の置き場所に注意している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりハット報告書や、インシデントレポートをスタッフ間で検討、事故の原因を探り再発防止に努めている。又、一人ひとりの利用者様の状況から予測される危険をユニット会議で検討している。事故防止の為のマニュアルを作成、さらに社内研修で事故防止について学んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを作成して、目に付く場所に掲示している。スタッフの半数が救急救命士の指導を受けているが、すぐに対応できるか不安である。	○	緊急時に備えて、グループホーム内での学習会や、イメージトレーニングを実施していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急連絡網を、目に付く場所に掲示し、1階、2階協力のもと作成している。又、消防署の指導のもと防火訓練も行っている。	○	運営推進会議を通じて、近隣の協力が得られるよう町内会の方をお願いしている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	退院後、又は状態が悪くなった時に御家族様に連絡し、おこりうる事故について話し合いどのような対応がよいか御家族様と検討、納得して頂いている。(転倒の可能性が大きい方でも、なんとか介助歩行となり、御入居者様はいきいきした毎日を過ごされている)		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は普段の状況を常に把握、毎日バイタル測定もし記録に記載している。異常が見られた場合は状況に応じて、訪問看護又は、担当医に相談受診している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方内容は、医療機関と薬局の薬剤師に確認相談している。処方内容は、見やすいように個人ファイルに入れてある。		誤薬をしない為に3回の確認を徹底している。薬を手にとった時の確認、薬の袋を破いた時、飲ませようとする時は必ず薬の袋に書かれている名前を声を出して読み上げている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個人の排便記録表を作成し、下剤が処方になっている方には、下剤調整を行っている。便秘が続くようなら訪問看護師に相談し指導を受けている。又、朝の冷たい牛乳を飲用してもらう。水分補給も個人の好みに合わせ多めに飲んでもらっている。午前のラジオ体操、午後の体ビン体操も実施し自然排便できる様取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個人の状態に合わせて毎食後、歯磨きを実施、自力で出来ない方は介助を行っている。訪問歯科と連携を取り、ブラッシング指導、注意点について指導して頂いている。		社内研修の一環として実施している。新人研修、スタッフ教育にも口腔ケアの重要性について研修、理解を得ている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によりカロリー計算された献立を基本としているが、糖尿病等の方には、メニューを少し変えて提供している。(病院より栄養指導を受けている)一人ひとりの水分量、食事摂取量をチェック表に記録、好みの飲み物を提供している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルを作成している。インフルエンザワクチンを入居者様と職員全員が接種している。スタッフ、入居者様、御家族様、来館時の手洗い、うがいの徹底、更に温度、湿度調整、次亜塩素酸ナトリウムによるドアノブ、手すり、トイレ、洗面所等、消毒清掃も行っている。又ペーパータオルを使用している。		ノロウイルス、インフルエンザ流行期間はマニュアル通り実施しているか、介護部長がチェックしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、包丁、ふきん等調理器具は毎日塩素消毒している。又、ノロウイルス対策として流行時期は、食器も毎食後煮沸消毒している。又、食品管理は冷蔵庫、冷凍庫内の賞味期限を含め、スタッフ、栄養士が二重にチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先には、花壇を設置、親しみやすい表札を工夫設置した。又、玄関内は、季節に応じた生花をかざり更に、職員の顔写真入りのプレートも掲示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	節分のみめまき、ひな祭り等、季節感を意識的に取り入れたり、季節に応じた装飾を行っている。又、御入居者様が喜ばれる行事の写真や、手作りした物等を飾り、御入居者様が落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前にはソファを設置しており、御入居者様がソファで横になったり気の合った者同士が談笑したり、思い思いに過ごせるよう工夫をしている。廊下にはいつでも休める様ベンチを設置してある。又、量の小上がりがあり、そこでゆっくりくつろいでいる御入居者様もいる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使用していた、なじみの家具や、ベッド等を使用している。又、居室内の壁に、御家族やお孫さんの写真を貼っている方もいる。更に居室入り口の小窓には、個人のスナップ写真等、思い思いの物を飾り楽しませられている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	御入居者様の状況に合わせ、個別に温度調整、換気を行っている。湿度計、温度計を見ながら、加湿器を設置したり、洗濯物や濡れタオル類を活用、適切な湿度になる様工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置、又、車椅子用のトイレもある。廊下は広く長い為、下肢筋力をつける為、歩行訓練としても活用している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	センター方式でアセスメントし、一人ひとりの何が解かり難いのかをしっかりと把握し、状況に応じて対応している。又、混乱や、失敗が生じた時はただちに、職員同士で話し合い安心して生活できるよう取り組んでいる。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭には畑があり、種まき、草取り、収穫を楽しめる環境となっている。玄関前には広いスペースがあり、ベンチを置き天気の良い日は外でお茶や、おやつを食べたり車椅子の方も外気浴を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>毎日ある</u> ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② <u>家族の2/3くらい</u> ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ <u>たまに</u> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

御入居者様が職員と食事準備から調理までしている。又、味つけ、茶碗拭き、掃除、洗濯物たたみ等、役割を持って生活をしている。毎月行事計画を立て、御入居者様全員で外出や外食、普段行けない遠方にも行き、楽しんでいる。又、町内会、御家族様御協力のもとホーム独自の夏祭りを開催し、地域との交流もでき御入居者様も楽しむ事が出来た。